

環境未来都市・横浜から提案する、新たな時代のイルミネーション 「スマートイルミネーション横浜 2018」アートプログラム他、実施内容発表

10 月 31 日（水）～11 月 4 日（日） / 象の鼻パーク、横浜市内各所

スマートイルミネーション横浜実行委員会は、環境・省エネルギー技術とアートの創造性を融合させ、新たな夜景の創造を試みる国際アートイベント「スマートイルミネーション横浜2018」を、10月31日（水）～11月4日（日）までの5日間開催します。

2011年の東日本大震災後、都市空間における環境・省エネルギー技術活用の高まりを契機に始まり、今年で8回目の開催です。国内外のアーティストたちが環境技術とアートを融合させてつくりあげる「アートプログラム」、アーティストの発掘と育成を目的とした「スマートイルミネーション・アワード 2018」、本取組の趣旨に賛同した様々な主体による多彩なイルミネーションが横浜市内で繰り広げられる「連携プログラム」など、参加者自身が作品の一部になるような参加型インスタレーション、ワークショップ、各種イベントなど見どころ盛りだくさんの内容でお送りいたします。



「スマートイルミネーション横浜 2017」より
photo:Hideo Mori

■「スマートイルミネーション横浜 2018」見どころ

・「アートプログラム」～環境・省エネルギー技術とアートを融合する新たな時代のクリエイティブな夜景を体感～
今年は国内外で活躍するアーティストに加え、大学や企業による全 15 組・19 作品が横浜の夜を彩ります。

・「スマートイルミネーション・アワード 2018」～未来の夜景を創造するアーティストを発掘～
LED や風力など環境・省エネルギー技術を活用した作品や、環境に配慮した作品など、海外からの出展作品を含む全 17 作品を展示します。

・「連携プログラム」～市内の企業・商店街等と連携し、横浜らしい夜景づくりを盛り上げる～
10 月 31 日～12 月末の期間、本取組の趣旨に賛同した横浜市内の 31 施設・団体(9 月 18 日現在)が参加します。

<<イベント概要>>

名 称：「スマートイルミネーション横浜 2018」

全体 テーマ：世界に誇る、創造的横浜夜景

期 間：2018 年 10 月 31 日（水）～11 月 4 日（日）5 日間 / 17:30～21:30

※一部作品（アートプログラム）及び連携プログラム は 12 月末までを予定

会 場：象の鼻パーク、横浜市内各所

主 催：スマートイルミネーション横浜実行委員会

共 催：横浜市

オフィシャルパートナー：株式会社 FREEing

特 別 協 賛：ペイ・ドックワイン委員会、富士ゼロックスアドバンステクノロジー株式会社

協 賛：エリーパワー株式会社、カラーキネティクス・ジャパン株式会社、株式会社 中川ケミカル、ランドポート株式会社

アートベース：スパイラル/株式会社ワコールアートセンター

※本事業は平成 30 年度文化庁 文化芸術創造拠点形成事業に採択されています。

※公式ホームページ <http://www.smart-illumination.jp/>、公式動画 <https://www.youtube.com/watch?v=vvleyL72W7k>



平成 30 年度
文化庁文化芸術創造拠点
形成事業



【報道関係の皆様からのお問い合わせ先】

株式会社サニーサイドアップ 担当：滝口真子、山口純平、蛭川貴之

TEL：03-6894-3200 / FAX：03-5413-3050 / E-mail：siy2018@ssu.co.jp

【一般の方からのお問い合わせ先】

スマートイルミネーション横浜実行委員会 事務局

TEL：045-633-9660 / FAX：045-662-0082 / E-mail：sij@ludens.be

I. アートプログラム

日時：10月31日（水）～11月4日（日）17:30～21:30 ※一部作品は12月末までの展示を予定

場所：象の鼻パーク、象の鼻テラス

環境・省エネ技術とアートの融合を体験する5日間。注目すべきアーティスト・大学・企業 全15組・19作品のアートプログラムを展示します。今回のアートプログラムのテーマは「Potential of lights」（光が持つ可能性の追求）。太陽光発電や蓄電、LED、有機ELなどの新エネルギーや再生可能エネルギー技術が溢れる現代で、「照明」の可能性とはなにか？と私たちは模索しています。産業としてのテクニカルな光が飽和する中、私たちは人と人をつなぐ光のポテンシャルに注目し、更なる*HI-SMARTな省エネ技術とアートの融合を探索し、インタラクティブで色彩豊かな空間をアーティストとともに表現します。

*HI-SMART…HI-SMARTとは、SMART ILLUMINATIONの「SMART」に、技術だけでなく概念的にも上回るよう「HIGH」をつけた造語。HIGH+SMART=HI-SMART（ハイスマート）

○参加アーティスト：

荒牧悠、金大偉、日下淳一、久保寛子、高橋匡太、TETSUJIN(高橋哲人、モシ村マイコ)、徳永宗太、原倫太郎、FUKUPOLY、森貴之、関東学院大学建築・環境学部ビルディング・ワークショップ2018+、東京大学／慶應義塾大学 寛康明研究室、横浜市立大学 鈴木伸治ゼミ、株式会社中川ケミカル、パイフォニクス株式会社（全15組：アーティスト10組・大学3校・企業2組、五十音順）

《展示作品》 ※プログラムの内容はすべて予定です。今後変更となる可能性があります。

■ 《音色ランデブー》 高橋匡太



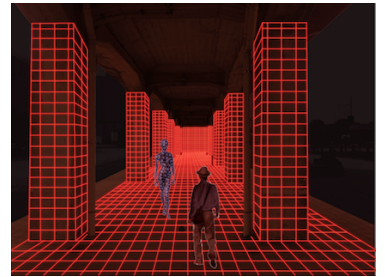
（作品イメージ）
参加者が奏でる音が光の色を作り、別の誰かが作った光と出会うことで生まれる新たな色が、横浜税関のクイーンの棟で鮮やかに光ります。

■ 《海足（うみあし）》 久保寛子



Photo : Kazue Kawase (YUKAI)
当初泥足（どろあし）と名付けられた作品は、「スマートイルミネーション横浜2018」で光という新たな要素が加えられ、海足（うみあし）として再現。港を介して様々な文化が溶け合う横浜という土地に立つ二足の足は、海の向こうからやってきた外来者の姿なのか、はたまた深海の世界を内蔵する巨人の人体なのか。足の内部に入ることができ、アクションにより光が変化します。

■ 《View Tracing》 森貴之



（作品イメージ）
景色をトレースすることで物体から質量と重量を取り除き、全長33mの空間をバーチャルなポリゴンの世界へと変換させる作品。鑑賞者は変換された曖昧な空間に入り込み、二次元と三次元との狭間に迷い込んだような、不思議な感覚を体感します。

■ 《Star☆Jam Street～清掃楽器音楽夢想～》 TETSUJIN (高橋哲人、モシ村マイコ)



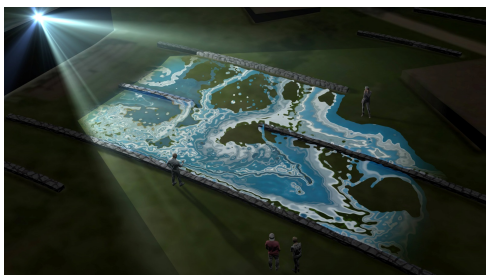
（作品イメージ）
音と光を演奏できるホウキギター、デッキブラシベース、おそうじドラム、他、掃除道具の形をした清掃楽器による、鑑賞者参加型の音と光のインタラクティブアート。清掃楽器を鑑賞者が弾くことで音が響き、映像照明が連動してその場がステージへと変わっていきます。ホウキをエアギターするとエレキギターの音が鳴り、映像照明が当たります。他の清掃楽器も同様で、ドラムの場合ははたきを振る事で演奏。ついさっきまで鑑賞者であった人が他の鑑賞者をオーディエンスとして演奏する状態へと変化し、参加する事でセッションが始まります。

■ 《Light String Figure》 荒牧悠



（作品イメージ）
光の紐であやとりをします。手の中に収まらないあやとりは、横浜の夜景をそっと見立てます。期間中に光るあやとりのワークショップを実施する予定です。

■ 《WAVE》、《GECKO》 FUKUPOLY



（作品イメージ）
芝生へ投影するプロジェクションマッピング。地形を正確にモデリングし、実際の芝生の傾斜から流体がシミュレーションされる様子を投影。海に向かって流れ落ちたり、渦流により水たまりができるなど、CGの流体は刻々と変わっていきます。



（作品イメージ）
GECKOは「ヤモリ」、「月光」を意味します。ベートーベンの「Moonlight sonata」の音声スペクトラムが流体シミュレーションのゆらぎに変換され、球状に噴出される映像を壁や床面に投影しながら歩き回るパフォーマンス。

■ 《Pneuma/ニューマ》

東京大学/慶應義塾大学 寛康明研究室



(作品イメージ)

古くから、息は生物の命を意味し、人間の存在を確かめるものとして作用してきました。本作品 Pneuma は、「息」という儚い現象をシャボン膜と光によって切り取り、その場にいる人の存在を浮かび上がらせます。体験者は、ストローのような形状をした Pneuma デバイスにシャボン液をつけ、そこに息を吹き込むことによってシャボン玉を作ります。吹き込まれる息に応じて、Pneuma は闇夜の中に様々な色や明るさの光を灯します。

■ 《光球（ひかるたま）》、《ひとがたちょうちん》

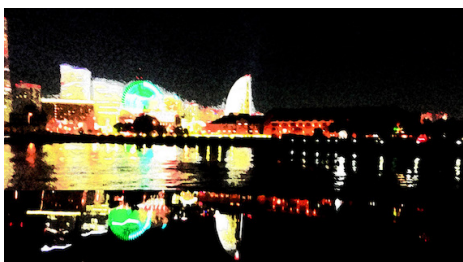
関東学院大学建築・環境学部ビルディング・ワークショップ 2018+



「光る」・「動く」・「浮く」。この3つのテーマに沿って、夜の空間に置かれる仮説構造物をデザイン。光球は、1440本の柵材を使用し隙間を開けて横層させた構造で内部を空洞化。台座のにじり口より入ることができます。空洞内部に設けられた緩やかに回転する光源からの光が、外側に向かって角材の隙間から漏れだします。

■ 《VV-IEW（ダブルビュー）》

横浜市立大学 鈴木伸治ゼミ



(作品イメージ)

水面に近い部分にカウンターと水盤を設置。水盤の錯視効果によって、水面が身近に見え、夜景が反転して映り込むことで、新しい夜景観賞スポットを提供します。

■ 《光のらくがき》

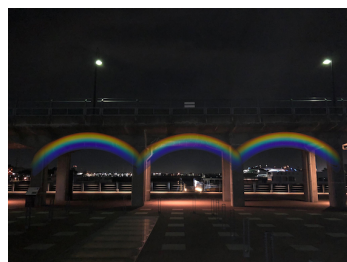
株式会社中川ケミカル



蓄光シートのパネルにペンライトをつかって自由にお絵かきを楽しめる作品。
また、象の鼻テラス内にて、仮面(マスク)にカットイングシートを貼ってオリジナルマスク作るワークショップを同時開催します。

■ 《虹の撮影台》

パイフォトニクス株式会社

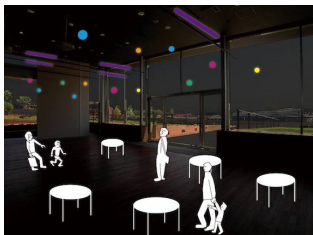


(作品イメージ)

ホロライト・レインボウは白色 LED 光源を分光して虹色を発生する LED 照明です。本作品は、ホロライト・レインボウを内蔵した撮影台から現れる虹と共に記念ポーズをカメラ撮影できます。二度と訪れることのない今日という日の1枚を煌びやかに彩ります。

■ 《上昇と下降 -リフレクション-》

原倫太郎



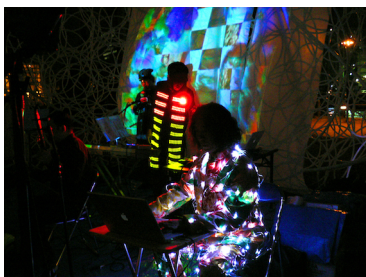
(作品イメージ)

彩られた発砲スチロールのボールが、薄暗い空間に張り巡らされた透明の糸のレール上をゆっくりなスピードで駆け巡ります。ボールは壁や柱へ向かって直線に進むと進行方向を変え、緩やかな傾斜を保ちながら高さ4m~2mの間を下降。また、ボタンにブラックライトを複数設置することで、ボールが蛍光色(赤、青、黄色、緑、オレンジ)に発光します。観賞者は転がるボールの軌跡を追うことで、あたかもボールが浮遊しているように感じたり、重力に逆らって上昇しているような感覚に陥ります。発光するボールはホタル、言霊、惑星など、様々なイメージに置き換えられ、鑑賞者は自由に想像を膨らませることができます。

《パフォーマンス・イベント・ワークショップ》

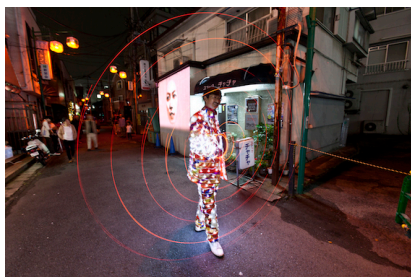
■ 《アジア・エレクトロニック・ライブ》

金大偉(Kin Taii)



中国系アーティスト金大偉によるアジア大陸のテクノポップソロコンサート。演奏に合わせて光る衣装と舞台装置(映像)をハマのイルミネーター日下淳一が手掛けます。

■ 《円空儀》 日下淳一



全身光る衣装を纏ったイルミネーターがスマートイルミネーション会場各所で、光の円を描くパフォーマンスを行います。見かけた方には、スローシャッターで撮影した写真を SNS で投稿して頂きます。

■ 《船上茶会「沈黙の光」》

日下淳一・徳永宗タ



茶道裏千家準教授徳永宗タとハマのイルミネーター日下淳一による船上茶会。クルーザーで横浜港内の夜景を巡りながら一服を提供。約1時間半の風流な茶会クルージングです。
料金：3000円、各回定員20名(予定)

Ⅱ. スマートイルミネーション・アワード 2018

日時：10月31日（水）～11月4日（日）17:30～21:30

場所：象の鼻パーク

LEDや有機ELなど、環境共生型の照明技術の新たな活用方を発見、創造する機会と次世代のアーティストの育成を目的としたアワードです。今回は17作品が集まり、11月4日（日）に象の鼻テラス内で授賞式を実施します。

[審査員]

岡田勉（スマートイルミネーション横浜 2018 アートディレクター
／スパイラル シニアキュレーター）

小泉雅生（建築家／小泉アトリエ・パートナー／首都大学東京大学院教授）

清水克彦（横浜市文化観光局 文化芸術創造都市推進部長）

太刀川英輔（デザインストラテジスト NOSIGNER 代表

／創業者 慶應義塾大学 SDM 特別招聘准教授）

信時正人（スマートイルミネーション横浜実行委員会 委員長／横浜国立大学 客員教授）



スマートイルミネーション・アワード 2017
最優秀賞受賞作品「GIFARO」／荒牧悠

※昨年度、最優秀賞を受賞した荒牧悠氏は、スマートイルミネーション横浜 2018 に、招待作家として招聘されています。

Ⅲ. 連携プログラム

日時：10月31日（水）～12月末

場所：横浜市内各所

2ヶ月間にわたって開催する連携プログラムでは、市内各所で行われる「スマートイルミネーション横浜」の趣旨に賛同した様々な施設や団体のイルミネーション、光のイベントと連携し、横浜夜景の魅力を継続的に発信します。

＜参加予定施設・団体＞

アニヴェルセル みなとみらい横浜、大岡川アートプロジェクト実行委員会、音灯瑜伽、ガス灯の魅力 PR イベント実行委員会、神奈川県、関内外 OPEN!10、北仲通北公園愛護会、キリンビール株式会社横浜工場、京浜フェリーボート株式会社、東京藝術大学大学院映像研究科、東京大学寛康明研究室、ナビオス横浜、日本大通り活性化委員会、ホテルニューグランド、みなとみらい 21SP 推進委員会、みなとみらい 21 グランモール公園イルミネーション実行委員会、協同組合 元町エスエス会、横浜港大さん橋国際客船ターミナル、株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）、横浜桜木町ワシントンホテル、横浜市建築局建築防災課、横浜市政策局男女共同参画推進課、NPO 法人横浜シティガイド協会、横浜市文化観光局企画課・事業構想大学院大学、横浜税関、横浜中華街発展会協同組合、一般社団法人横浜西口エリアマネジメント、横浜はしけ運送事業協同組合（SUITAKU）、一般社団法人 横浜まちづくり倶楽部、横浜マリントワー、株式会社リンクバル（9月19日現在、31施設・団体、五十音順）

（連携プログラムの一例）

■ 《ひかりの実 2018「防災の樹」》

主催：横浜市建築局建築防災課・アーティスト：高橋匡太

日程：10月31日（水）～11月4日（日）

場所：象の鼻パーク

・ひかりの実ワークショップ：10月31日（水）～11月3日（土）

＊ワークショップは参加人数に限りがありますので予めご了承ください

＊参加無料



防災啓発の一環として、被災地とのコミュニケーションツールであるとともに、震災をはじめとする大規模な自然災害への備えを忘れないことのシンボルでもある「ひかりの実」を使って、スマートイルミネーションの会場内に「防災の樹」をつくり出します。また参加型ワークショップを会場内で実施し、来場者とともに「防災の樹」に「ひかりの実」を实らせませす。

「防災のシンボルとなっているアート」を用い、「防災」や「自然災害」について考えるきっかけの場づくりを目指していきます。参加者には横浜市の防災に関する取組について知っていただくためのリーフレット等を配布。10月20日（土）には防災×キャンプを題材とした、アウトドアライフアドバイザーの寒川一氏によるトークイベント（事前申込み制）と、ひかりの実事前ワークショップを横浜市民防災センター（神奈川区）で実施します。

【報道関係の皆様からのお問い合わせ先】

株式会社サニーサイドアップ 担当：滝口真子、山口純平、蛭川貴之
TEL：03-6894-3200／FAX：03-5413-3050／E-mail：siy2018@ssu.co.jp

【一般の方からのお問い合わせ先】

スマートイルミネーション横浜実行委員会 事務局
TEL：045-633-9660／FAX：045-662-0082／E-mail：sij@ludens.be